

会 議 録

会 議 の 名 称	令和5年度 第1回所沢市学び創造アクティブPLUS推進委員会
開 催 日 時	令和5年7月11日(火) 14時00分～15時30分
開 催 場 所	所沢市立教育センター セミナーホール
出席者の氏名	〔委員〕 東京工業大学名誉教授 赤堀 侃司 所沢市幼児教育振興協議会長 石嶺 雄大 学校応援団コーディネーター 浅見 木綿子 PTA代表 田中 幸裕 PTA代表 黍原 満喜子 小学校 校長会代表 明峰小学校 鈴木 克彦 中学校 校長会代表 所沢中学校 江原 勝美 所沢図書館 主査 本橋 佐和 保健給食課 指導主事 畑中 結季 小学校教諭 北小学校 牧野 涼子 中学校教諭 小手指中学校 石原 早紀
欠席者の氏名	なし
議 題	1 説 明 (1)本委員会について (2)『学び創造アクティブPLUS』基本方針・行動方針説明 2 協 議 ○協議の視点 「未来を切り拓く力」の育成について ～これからの時代を生きる子供たちに身に付けてほしい力～
会 議 資 料	・令和5年度第1回所沢市学び創造アクティブPLUS推進委員会次第 ・令和5年度所沢市学び創造アクティブPLUS推進委員名簿 ・「学び創造アクティブPLUS」学力向上推進事業 リーフレット
担 当 部 課 名	学校教育課 電話04(2998)9238 (出席者) 教育長 中島 秀行 学校教育部長 中田 利明 学校教育担当参事 吉川 誠 教育センター主幹 阿部 英貴 学校教育課 主幹 刈谷 和哉 教育センター 指導主事 清水 航 学校教育課 指導主事 北嶋 一済 学校教育課 指導主事 長谷川 義博 学校教育課 指導主事 岩井 大地 学校教育課 指導主事 渡野邊 拓

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
	◆開会
司 会	進行は事務局の長谷川が担当する。令和 5 年度第 1 回所沢市学び創造アクティブ P L U S 推進委員会を開会する。 教育長より委員へ委嘱状を交付。
司 会	中島教育長より挨拶を申し上げる。
教育長	◆教育長あいさつ
司 会	委員の紹介並びに事務局自己紹介
司 会	委員長の選出を行う。設置要綱第 5 条により委員長・副委員長については、委員の皆様との互選となっている。いかがか。
委 員	委員長を赤堀先生にお願いしたい。
司 会	赤堀先生にお願いするというのでよいか。では、赤堀先生お願いします。 次に副委員長は、いかがか。
委員長	鈴木先生にお願いしたい。
司 会	鈴木先生にお願いするというのでよいか。では、鈴木校長先生お願いします。
委員長	◆委員長あいさつ
委員長	では、事務局より、「学び創造アクティブ P L U S」の説明をお願いします。
事務局	◆プレゼンによる説明
委員長	この後、協議をお願いします。協議題は「未来を切り拓く力」の育成ということで、それぞれの立場から話してほしい。
委員長	生成型 AI に任せては本当の力がつかないのではないか。 コロナ禍は 9 波に入り、ウクライナ等の国際情勢もある。 作文を含め自分を表現する力。共感する力。AI には共感する力はない。 これからどういう力を身に付けていくことが大切になるのか。
委員長	協議の視点を意識してそれぞれの立場で話してほしい。
委 員①	自分の子供達は介護の視点が育ってきている。こども食堂に手伝いにいきたいと言っていた。作文力の低下は実感している。
委員長	家でも書く力を養ってほしい。
委 員②	教科書の展示会に行った。どれもよくできていた。大人の目線から見ると、ビジネスマンのノウハウ本のようにも感じたが、よくできている分、想像力がつかないのではないか。簡単に知識が入るが、それが本当に自分の力になるのか疑問に感じている。 「主体的に学ぶ」ことを意識すると、過保護に育ててしまうと「他の人がやってくれるが当たり前」となってしまう。
委 員③	「未来を切り拓く力」と聞いて、今の子供達は本当に守られていると感じている。今はあまり競わせていない。得意不得意を子どもに認識させていない現状がある。世の

	中に出れば得意・不得意をもっている人がたくさんいるということを教えてほしい。
委員④	幼保小の連携を行っている。市全体で500人位園児が減っている。今まで当たり前前に出来ていたことができなくなってきている。現在は満2才から預かっている。現在は支援が必要な子供が増えてきている。支援が必要な家庭と関わることも増えてきた。園では「がんばる力」を大事にしている。いろいろなことに挑戦してほしいと考えている。
委員⑤	子供達が自分の気持ちを表現できる力。コミュニケーション能力が必要であると思う。伝わらないとあきらめてしまう子供たちが多いと感じている。社会に出ることを考えると、適切な表現を学ぶことが必要だと考える。考えることをあきらめないでほしい。
委員⑥	コミュニケーション能力が低いと感じる。柔らかく関わるのが大切になってくるのではないかと感じる。メディアが即時性のあるものなので、パソコンを連打をしている子を見ると、じっくり待つ、じっくり自分を見つめる時間や、反芻したりする時間が大切なのではないかと感じる。言葉がストレートであり、「うざい」「やばい」と一言で片づけている。情報を精査する力。人を信じていいんだよ。ゲームでは他とつながっているが、繋がり方が薄いのではないかと感じる。人を信じる力がこれから必要になってくるのではないかと感じる。
委員⑦	体調不良の生徒が来たが、どうなのかを自分で言えなかった。養護教諭の先生が話しながらどうするかを引き出していた。自己肯定感を伸ばしてあげたい。
委員⑧	図書館としては、物語やエッセイ等を読んでほしい。読むことで感性をみがき、豊かな語彙を獲得してほしい。第4次計画にも生かしていきたい。調べ学習で学校団体貸し出しを行っているが、クロムの影響か、団体貸し出しが減っている。
委員⑨	無答率について、パソコンで回答が進むにつれてますます難しくなるのではないかと感じる。修学旅行では、パーテンション無しで向かい合わせになって食事をした。徐々に子供たちが話し出してきてきた。子供は集団で楽しむことを欲しているのではないかと感じる。年齢が低くなっていくにつれて会話での語彙が少なくなってきている。
委員⑩	子供の耐性が無くなってきている。コロナ禍で体力が下がったせいかわからないが、すぐに具合が悪くなる子供が増えた。子ども同士の会話でも些細なことを言われるとすぐに保護者も反応してしまう。我慢ができないことが無答率につながるかわからないが、今はインターネットなどで調べると何となく答えがでてしまう。本来身に付けたい「耐える力」が見についていないのではないかと感じる。
委員長	語彙が少ない。チャレンジができていない。コミュニケーションができていない。言葉に触れるのが少ないのではないかと感じる。便利になりすぎている。待たなくて済む。時間が早くなってきている。相手を思いやる力。 大学生は意外と考えている。読解力も高い。読む力、読み取る力はある。しかし、理科や社会の本質が分かっていないのではないかと感じる。話し合わせるとそれなりに意見が出てくる。一つの意見が出るとまた次の意見が出てくる。ポテンシャルは高い。その力をどうやって引き出すかが大切である。他国に比べると日本の教師のレベルは高い。表面的な問題点はあるかもしれないが、日本の子供たちは力をもっている。世界

	にはとびぬけた人はいるが、平均は日本の方が上。意見を求めればしっかりと言う。タブレットで意見を書かせるとよい意見が書ける。本来持っている力を出させてあげることが大事。もっと自信を引き出さしてあげてほしい。
委員④	「ほめて育てる」を大切にしている。タイミングよく声掛けをしながら、過程を大切にしてほしいと伝えている。自分の子供の成長を見てほしいと伝えている。
主幹	表現力が課題にあがっていた。受け取る側の心理的な側面。ネガティブ・ケイパビリティである曖昧さに耐え得る力が大切。
部長	協議で出た懸念点の解決策は、学び創造のパンフレットにすべて詰め込まれているのではないかと。ここに詰まっている要素をすべての大人ができるわけではないが、毎年修正している内容を周知していくのが事務方の役割。やってみなければはじまらないので、何か自分たちができることはないかと大人に思ってもらえるようにしていきたい。
参事	これまで表現力を気にしてきた。ある国では、壁のどこにでも自分の考えを書いてよいという取り組みをしているということを知ったことがある。
主幹	子供をどう伸ばしていくか考えながら聞いていた。子供観を先生たちがどれだけ深く理解しているか気になったので、今後「子供観」を先生たちに意識してもらえるように担当として取り組んでいく。
教育長	一万年前の人間と言葉が通じるのであれば、話はできる。つまり人間はかわっていない。悲観すべきことではないが、経験することは減ってきている。学校では経験をさせていくことを手放さないようにしていくべき。学校は人材の養成に傾倒しているのではないかと。「学校の当たり前をやめた」は学校で余計なことをするなということであり、それは教育の格差が広がっていくのではないかと。例えばプールをアウトソーシングしていくことなどがそうである。教育はトータルのものである。所沢市の子供達に力をつけていきたい。
司会	ただ今いただいた、ご意見を踏まえ令和5年度所沢市学び創造アクティブPLUS事業、次期学力向上推進事業の充実に生かしていく。
	◆閉会
司会	令和5年度第1回所沢市学び創造アクティブPLUS推進委員会を閉会する。